

ひたちなか市中心市街地ビジョン

(案)

いきている まちなかの風景をつくる
～つどう、つながる、はじまる。わたしのまちなか～

ひたちなか市

Contents（目次）

01 はじめに …P.3

- （１）ひたちなか市中心市街地ビジョンとは
- （２）これまでのまちなかの整備状況
- （３）中心市街地ビジョン策定の必要性
- （４）「使う側起点」の考え方によるアプローチ

02 エリアの将来像決定までの取組 …P.9

- （１）エリアの将来像決定のための考え方
- （２）まちなかの現状と課題
- （３）まちなかのポテンシャル
- （４）エリアの将来像等の方向性

03 エリアの将来像と戦略 …P.29

- （１）エリアの将来像
- （２）エリアの将来像達成に向けたコンセプト
- （３）エリアの将来像達成に向けた基本方針
- （４）期間
- （５）K G I
- （６）戦略とまちなかプロジェクトの方向性
- （７）中心市街地ビジョン全体骨格

04 まちなかプロジェクト …P.38

- 01 行きたくなるまちなかプロジェクト
- 02 顔が見える商業化プロジェクト
- 03 新中央図書館周辺エリア整備プロジェクト
- 04 誰もが過ごしやすいまちなかプロジェクト
- 05 健康まちなかプロジェクト
- 06 まちなか活動創出プロジェクト
- 07 にぎわいを日常に広げるプロジェクト

05 市民の皆さんへのラブコール（調整中）

06 資料編（調整中）

01 はじめに

ひたちなか市中心市街地ビジョンの位置づけを整理します。

1 はじめに

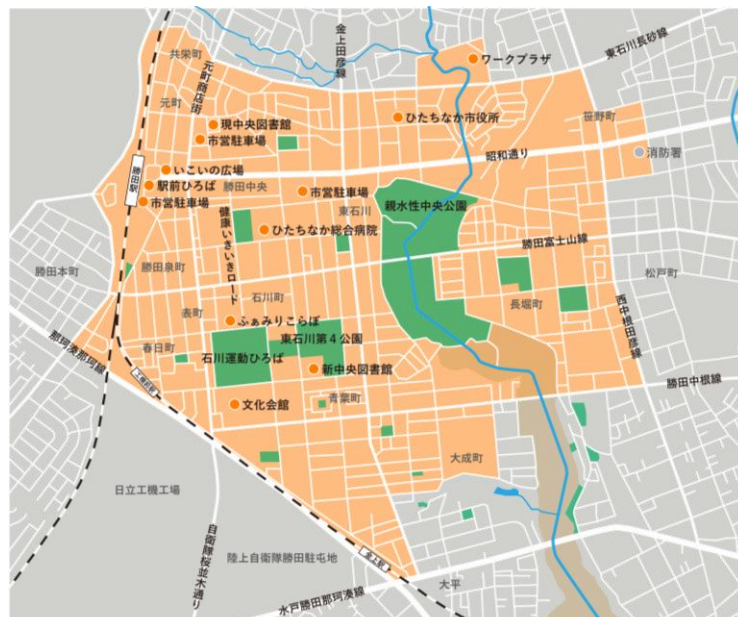
(1) ひたちなか市中心市街地ビジョンとは

「ひたちなか市中心市街地ビジョン」は、勝田駅周辺をはじめとする中心市街地（以下「まちなか」といいます。）を、市民やまちなかに関わる方が心地良く過ごせる魅力的な場所にすることを目的として策定しました。

まちなかの未来を市民、民間事業者、活動団体、市など多くの人が共に考え、目指すべき「**エリアの将来像**」を描くことから始まったビジョンです。

多様な意見を取り入れながら、将来の姿から逆算する「**バックキャスト**」（10ページ参照）の手法を用い、具体的な戦略によって取組を進めることで、持続可能で魅力あふれるまちなかづくりを推進します。

そして、さまざまな主体が関わり合う「**協働**」や、公共（市）と民間（民間事業者やNPO、市民など）が連携し、地域課題の解決や公共サービスの提供を行う取組である「**公民連携**」の視点に立って、より良いまちなかの将来像を共有し、創造していくための指針となることを目指します。



本ビジョンにおける「まちなか」のエリア

「ビジョン」と「計画」の違いについて

「ビジョン」とは、どのような姿を目指すのかという理想像や方向性を示す未来像です。これに対して、「計画」はそのビジョンを実現するための具体的な手段や行動、スケジュール、予算などを示す実行プランを指すとされています。「中心市街地ビジョン」とすることで、将来の理想的な姿と方向性を共有し、幅広い関係者の理解と参画を得ることを意識しています。

(2) これまでのまちなかの整備状況

現在のまちなかは、平成19年度から取り組んだ「勝田駅東口地区の再整備」や、「病院を核としたまちづくり」を再生の柱として、長年にわたって整備を進めてきました。駅前広場の整備や交通結節機能※の強化、医療や福祉、商業施設などの多様な都市機能を整備しました。

また、健康をテーマとする街路空間や豊かな自然を生かした公園、民間による優良な居住環境の整備など、集約された都市機能と静かな住環境が調和する良好な市街地の形成が進み、都市機能が大幅に向上しました。



(整備前) 混雑する勝田駅東口



勝田駅東口駅前広場



日立製作所ひたちなか総合病院



健康いきいきロード



親水性中央公園



子育て支援・多世代交流施設
「ふみりこらぼ」

※ 交通結節機能▶交通手段や路線が結びつき、乗り換えや移動をスムーズにするための機能

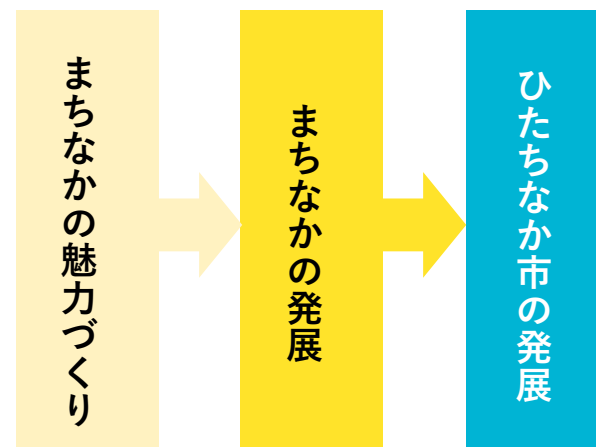
(3) 中心市街地ビジョン策定の必要性

なぜ「まちなか」の魅力づくりに取り組むのか？

これからひたちなか市においても本格的な人口減少社会が到来することが想定されます。そうした中でも、これまでに整備してきたインフラを活かしながら、都市機能や居住の誘導を進めることにより、生活サービス水準の維持や向上を実現するコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりが求められています。また、老朽化により建て替えを進めている新中央図書館にあわせた周辺エリアの整備や、現在使用している中央図書館を含めた今後のまちなかのあり方を検討していく必要があります。

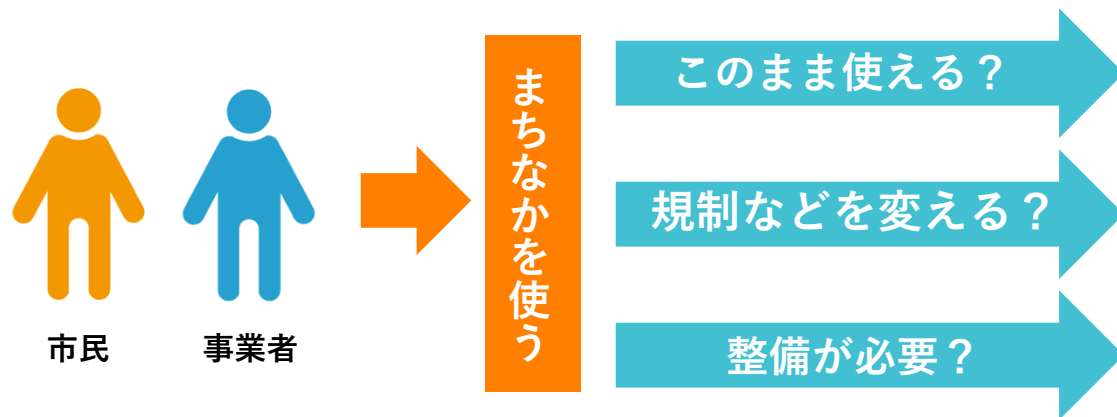
まちなかの魅力づくりに取り組むことで、まちなかに興味を持つ人が増え、まちなかの可能性や資源を活かそうとする市民、民間事業者、活動団体が集います。これにより、地域内外の人・モノの交流や循環が活性化し、市民活動や経済活動と結び付きます。こうしてまちなかが元気になることで、周辺地域も含め、健やかで楽しく、より豊かで暮らしたくなる市全体の持続可能な発展へとつながっていきます。

まちなかの魅力づくりは市全体の未来を見据えた重要な課題であり、市民や民間事業者、活動団体、そして市をはじめとする行政機関など多様な主体が連携して進めていきます。



(4) 「使う側起点」の考え方によるアプローチ

これまでの行政計画は、「計画して、つくって、使う」という順序で進められるのが一般的でした。しかし、**このビジョンでは「使う」ことから始めるアプローチを採用しています**。具体的には、ワークショップなどを通じて、実際にまちなかで暮らし、働き、活動する市民や事業者等が「使い手」となってアイデアを出し、まちなかの強み（ポテンシャル）を活かして小さな実験や実践を重ねながら、「自分」の描くまちなかのあり方を具現化していきます。市は、その結果を踏まえ、**整備を進めてきたまちなかが「このままで使えるのか」、あるいは「新たな使い方を市民と行政で考えていくのか」、場合によっては「整備が必要なのか」といったニーズを把握するとともに、このような実験等で得られた知見をビジョンや取組に反映していく、実践と対話を重視したアプローチ（以下「コミュニティデザイン」といいます。）**です。こうした方法を用いることによって、**共感を得られるまちなかづくりが可能になります**。



コミュニティデザインによる場の整備事例

おにクル（大阪府茨木市）

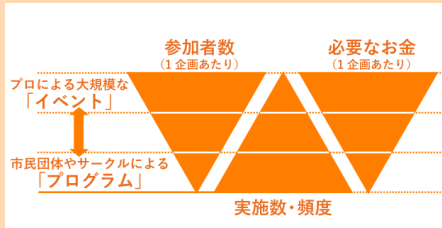
茨木市の「おにクル」は、文化・子育ての複合施設で、市民が気軽に参加できる「日常的な魅力」にあふれた「まちなか」の魅力を高める新たな拠点です。ワークショップなどを繰り返し、コミュニティデザインの手法を使って施設のあり方を検討しながら整備を進めました。また、おにクルを中心に展開される市民や活動団体が実施する小さなイベント活動は、市民一人ひとりが企画・運営し、気軽に参加・実践できる機会を創出しています。芝生広場や交流スペースといった居心地の良い場所を舞台に、手づくりマルシェや親子ワークショップ、季節ごとの遊びイベントなどが開催されることで、まちなかが「日常的に訪れたい」「関わりたい」空間へと育っています。おにクルの事例では「使う人」を起点にした施設の整備を行い、大きなイベントに頼るだけでなく、日常的な小さな活動の積み重ねによってまちなかの魅力と人の流れを持続的に生み出しています。



日常的な小さな活動

イベントとプログラムの違い

まちなかの魅力づくりには、非日常に実施される行政や企業などのプロが実施する大きなイベントと市民や団体が実施する日常的な小さなイベント活動（以下「プログラム」といいます。）の混在が必要です。特に、プログラムは参加者数が少なくても、大きな費用をかけることなく数多く開催できるため、いつもなにかが行われている風景が広がります。そして、参加する市民が活動している市民を見て「自分もやってみたい」といった気持ち生まれやすくなり、さらにプログラムが増えていく可能性が高くなります。



公民連携により公共空間を活用した事例

ほこみち（広島県福山市）

福山市では、福山駅周辺のにぎわい再生に向け、道路を歩行者にとって安心して歩いて楽しく過ごせる「みち」にしていく制度である「歩行者利便増進道路（ほこみち）」を活用した実践に取り組んでいます。駅周辺や商店街の歩道を単なる通行空間にとどめず、滞在や交流を促す場へと変える試みです。伏見町エリアでは、歩道にテーブルやイスを設置し、休憩や飲食ができる実証実験を行いました。従来は「通り過ぎる場所」であった歩道に、人々が立ち止まり会話を交わす風景が生まれました。こうした実験を踏まえ、商店会を中心に「デニム屋台プロジェクト」を立ち上げ、ほこみちの指定を受け、特産であるデニムののれんをあしらった屋台を設置。祭りやマルシェイベントなどでの活用を進めるなど、まちなかの魅力を高める新しい取組にチャレンジしています。



ほこみちを活用した屋台等の設置

また、駅前の歩道空間では社会実験を経て、国家戦略特区制度を活用した空間利用が進んでいます。これらの取組は、行政が制度活用に向けた手続きや関係者協議を支援し、民間事業者がサービスや活動を生むという連携により、人中心の空間活用を実現している点が特徴です。公共空間を「誰かのもの」ではなく「みんなの資源」として活かす姿勢が表れています。人が歩きやすく、立ち寄りたくなり、つながりを感じられるまちなかをつくることは容易ではありません。福山市の取組は、小さな実践を積み重ね、駅前や商店街を「通り過ぎる場所」から「居心地の良い居場所」へと変えていく可能性を示しています。



特区認定による公共空間の活用

02 エリアの将来像決定までの取組

「まちなか」がどうなったらいいか。

多くの方から聞いた「まちなかへの思い」や現状・課題、ポテンシャルなどを踏まえ、エリアの将来像の方向性などを整理しました。

2 | エリアの将来像決定までの取組

(1) エリアの将来像決定のための考え方

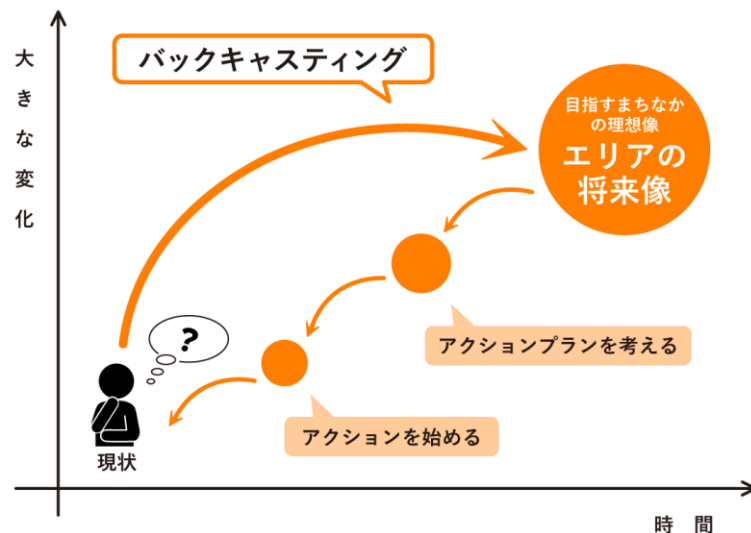
共感を得られるエリアの将来像にするためには、そこに多様な人の関わりが欠かせません。

さまざまな考えを持つ人と共に考え、多くの人と考えを共有し、納得できる将来像があってこそ、多様な主体が力を合わせて取り組むことができます。そのため、エリアの将来像をつくるにあたり、以下の考え方で進めました。

① バックキャストिंगで考える

バックキャストिंगは理想の未来像を起点に行動（アクション）を逆算して考えることで、従来の延長線では見えにくい発想や取組が生まれるとされています。

実践と対話を重ねることによって得たニーズや知見等をビジョンに反映させようとするコミュニティデザインの手法は、バックキャストिंगを採用することに適しています。まちなかの未来を多くの人と共に考え、多様な主体が共通のゴールを描くことで、具体的なアクションプランや協働の促進につながります。



② 市民の声を聞く

60組から「あったらいい」 まちなかのイメージをヒアリング

市民の声を聞くことは、エリアの将来像づくりに欠かせません。地域に暮らす人々の想いや課題を反映することで、共感を得られる将来像になります。

ビジョン策定のスタートとして、地元自治会長や事業者、地域で活動する団体の代表者など、およそ60組の方々からまちなかを魅力的な場所にするためのそれぞれの想いなどをヒアリングし、「あったらいいまちなかのイメージ」を整理しました。

また、多くの方のまちなかに関する意識を把握するため、市民3,000人を対象とした意識調査や、東京圏在住者1,000人を対象としたインターネットによるアンケート調査を実施しました。



まちなかに立地する自治会長、子育て中の保護者、市民活動団体、商業関係者、福祉関係者や高校生など、60組からヒアリングを行った。



60組の声から92の「あったらいいまちなかのイメージ」を言葉の葉として抽出し、ワークショップ参加者等がシールを貼ることで共感を確認した。

2 | エリアの将来像決定までの取組

まちなかに関するヒアリング等の声「あったらいいまちなかのイメージ」

安心

居心地が良い、ゆったりとした静かな場所

- ・自分らしくいられる、目的がなくてもいられる
- ・今と変わらない自然のある風景を大切にする
- ・自然豊かな公園で静かに過ごすことができる

つながり

出会い、交流を深めるつながりのある場所

- ・多様な人と出会い、つながり、仲良くなれる
- ・一人で暮らしていても、さみしくない
- ・応援する、応援してもらえる
- ・歩きやすく、夜間も街灯があり明るく回遊しやすい
- ・協働や連携がうまれやすい
- ・誰もが過ごしやすい、運動しやすい

ワクワク感

イベントなど何かがありそうな期待感のあるアクティブな場所

- ・まちなかに行ったら何かがありそうな期待感がある
- ・一過性ではなくて日常になっている
- ・若い人がチャレンジしやすい
- ・入ってみたいなるカフェや個性的なお店等がある
- ・イベントを満喫できる

愛着

寛容性を大切にし、育てていく場所

- ・他の地域から移り住んだ人が多い地域特性からうまれた寛容性をこれからも大切にしたい
- ・まちなかのいいところをもっとオススメしたい
- ・もっとまちのことを考える人が増えるように、みんなのためになることがしたい
- ・主体的に関わることでまちなかを自分の場所にしていけることができる

③ まちなかを使うことから考える

まちなかでやってみたいことを 「小さくお試し」して考える

まちなかで市民や事業者のやってみたいことを小さく社会実験する取組（以下「小さくお試し」といいます。）によって得られたニーズや知見を踏まえてエリアの将来像を具体化します。

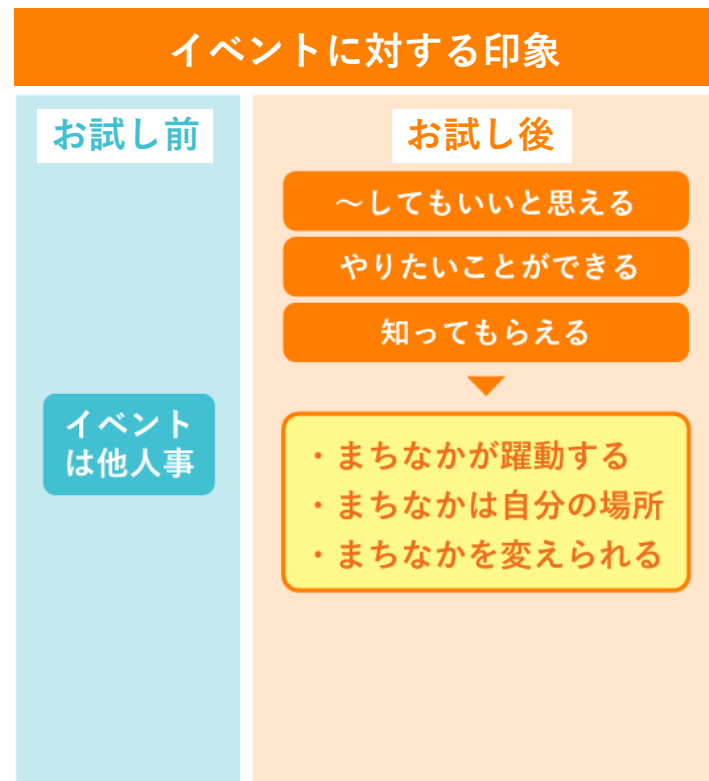
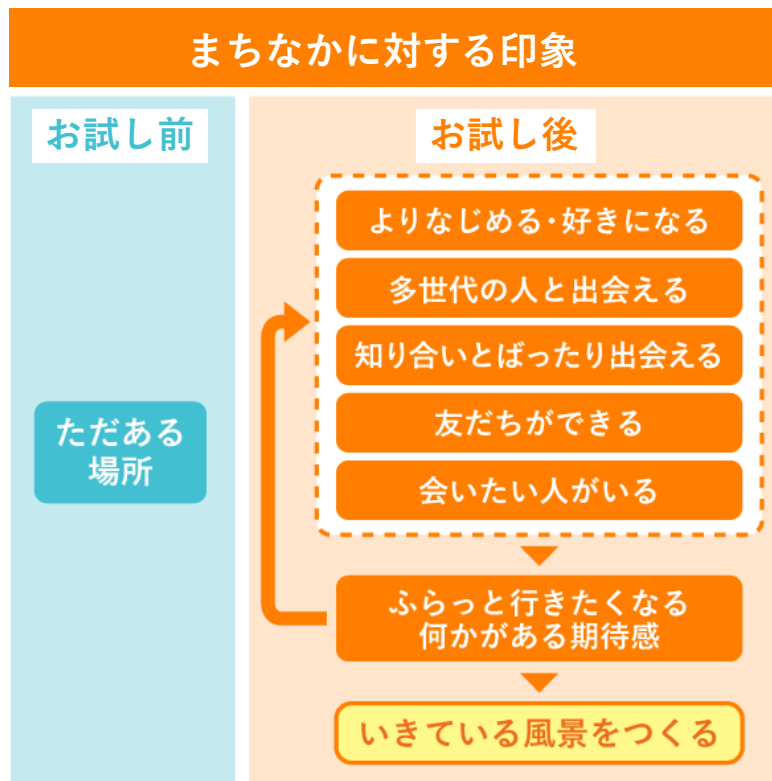
小さくお試しの活動を通して、まちなかに興味がある人が仲良くなり、新たな活動が生まれることで、まちなかを考える機会としました。

ワークショップや小さくお試しを重ねることで生まれた参加者のまちなかに対する前向きな「気持ちの変化」を整理しました。



2 | エリアの将来像決定までの取組

小さくお試し参加者の気持ちの変化



お試しする前は、まちなかは勝田駅を登下校や通勤の送迎などで利用することはあったものの、自分にとって意味がある場所ではなかったといいます。

小さくお試しを行うことで、まちなかにより親しみを感じ、人との出会いがあり、友だちができ、会いたい人がある場所になったと言います。さらに、そのような場所や雰囲気であれば「ふらっと行きたくなり」「何かがある期待感」が生まれ、そうした人があることで「いきている風景をつくっていく」という意見がありました。

お試しする前は、イベントは誰かがやるもので自分は参加する側だと「他人事」のように感じていたようです。

実際に自分が発案、企画、実施までしたことで、「好きなことをやってもいい」と思え、「やりたいことができる」「活動を知ってもらえる」と気付いたと言います。さらに主体的にまちなかに関わることで「まちなかが躍動し」「自分の場所になり」「まちなかを変えることができる」実感を得たという意見がありました。

④ 市職員も勉強する

13課約30名の市職員が プロジェクトチームを結成

市もまちづくりを担う一員です。市職員が市民の声を丁寧に聴くことに加えて、地域やまちづくりについて学び、理解を深めることが重要です。そのため、まちなかに関連する部署が、分野を横断するプロジェクトチームを発足し、ヒアリングやワークショップなどの取組で把握してきた市民のまちなかに関する想いを共有し、共通点や深層的な想いから理想のまちなかを整理しました。また、プロジェクトチームでは、「これまでのまちなかの整備状況、現状、課題」に加えて「誰がまちなかで過ごすのか」「ポテンシャルは何か」といった点を踏まえ、行政としての目指すまちなかについて整理しました。



プロジェクトチームでは、2年間で12回にのぼる話し合いを重ねた。

⑤ ビジョン策定の情報を共有する

多様な立場の人と 対話を重ねながらビジョンを策定

ビジョン策定の情報をオープンにすることで、多様な立場の人がエリアの将来像を理解しやすくなります。また、さまざまな人との対話と共有を重ねることで、まちなかに対して関心が高まるとともに活動する人が増え、未来を共に考えエリアの将来像を実現していくための土台が築かれます。

そのため、多様な立場の人が参加するシンポジウムや、まちなかの未来を話し合う未来デザイン会議などを開催し、対話を重ねながらビジョン策定を進めることで、多様な意見を尊重した、実効性のある将来像づくりを目指しました。



いつものまちなかをつくるワクワクシンポジウム（2025年2月）



未来デザイン会議まちなか編（2025年10月）



2 | エリアの将来像決定までの取組

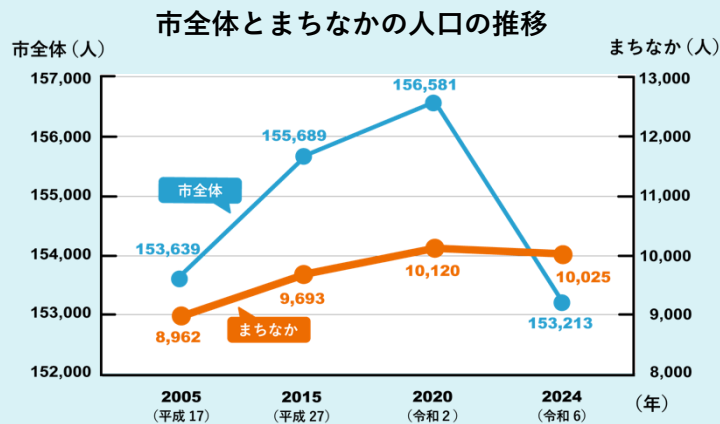
(2) まちなかの現状と課題

エリアの将来像を描くためには、まちなかの状況をしっかりと把握することが欠かせません。そのため、客観的なデータに基づく分析と、多様な立場の声を踏まえたヒアリング等をもとに現状と課題を整理しました。

① データで見る現状と課題 (1/4)

まちなか人口は堅調

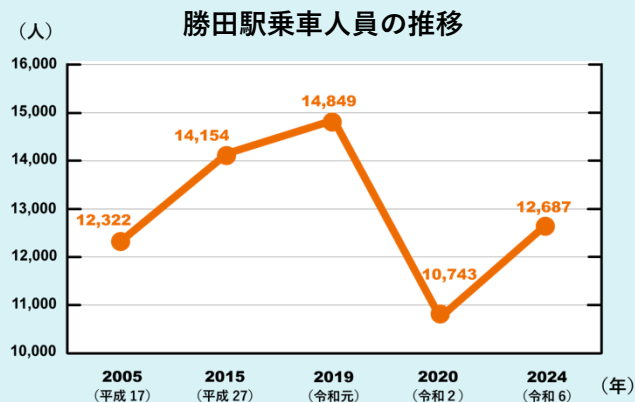
市全体としては人口が減少局面に転じています。まちなかの人口もゆるやかな減少傾向にあるものの、再整備を実施した平成19年以前と比較すると着実に増加しており人気の居住エリアとなっています。



出典：国勢調査（2005年、2015年、2020年）、茨城県常住人口調査（2024年）

勝田駅乗車人員は回復期

勝田駅の乗車人員は令和元年までは増加傾向にありましたが、コロナ禍による外出自粛などの影響により大幅に減少しました。現在は回復傾向にあります。



出典：統計ひたちなか及びひたちなか海浜鉄道資料

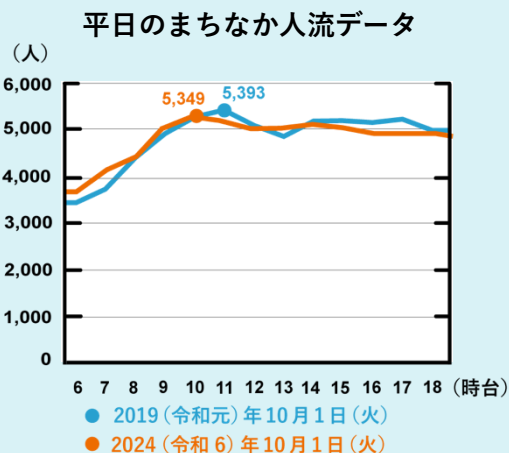
2 | エリアの将来像決定までの取組

① データで見る現状と課題 (2/4)

今回の調査では休日の人流データに減少がみられました。また駐車場が増加しています。

平日の人流データは 大きな相違なし

コロナ禍前と比較した平日のまちなかの人流データは大きな変化はみられませんでした。

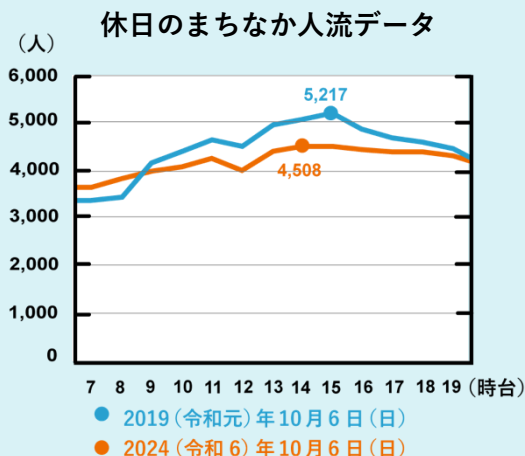


出典：モバイル空間統計によるデータに関するレポート
(2025年)

※対象エリア：勝田駅東口1kmメッシュ

休日の人流データは 減少がみられる

コロナ禍前と比較した休日のまちなかの人流データは減少が見られます。

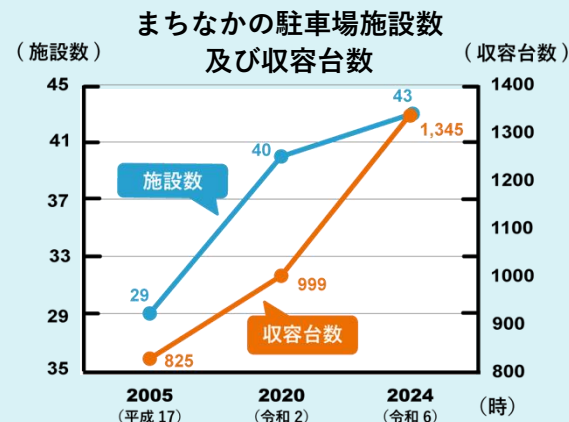


出典：モバイル空間統計によるデータに関するレポート
(2025年)

※対象エリア：勝田駅東口1kmメッシュ

駐車場の増加

まちなかでの駐車場施設数、収容台数はともに増加傾向にあり、商店からの転用や土地利用の単調化などが目立っています。



出典：市商工振興課調べ

2 | エリアの将来像決定までの取組

① データで見る現状と課題 (3/4)

市民アンケートの結果では、まちなかに対するオススメ度が相対的に低く、出かける機会が減少しています。また、まちなかの活性化に対する充実希望度が減少しています。

オススメできないまちなか

ひたちなか市のオススメ度を調べるネットプロモータースコア（NPS）では、「まちなかで過ごすこと」が他の項目より低くなっています。

オススメランキング

項目	NPS
住みやすさ	-21.3
全般的によいまちであること	-29.3
買い物・遊びなどで訪れること	-40.5
働きやすさ	-53.8
子育てのしやすさ	-56.4
仕事後の時間を楽しむこと	-70
趣味や教養を深めること	-71.5
いろいろな人と交友を深めること	-73.8
勝田駅前のまちなかで過ごすこと	-76.7

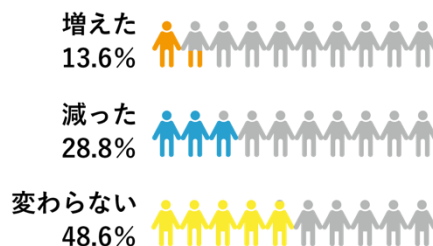
出典：まちづくりに関する市民意識調査（R6）

※ネットプロモータースコア（NPS）：他者に推奨する可能性を0～10で評価し、推奨者（9～10点）割合から批判者（0～6点）割合を引いて算出。マイナスになることが多い。「交友を深めること」や「趣味や教養を深めること」、「仕事後の時間を楽しむこと」もNPSが低くなっている。

出かける機会減少

コロナ禍前と比較してまちなかへ出かける機会は「増えた：13.6%」に対して「減った：28.8%」となっています。

コロナ禍前と比較した まちなかへ出かける機会

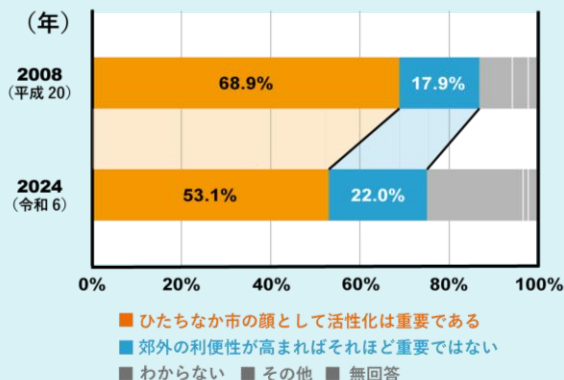


出典：まちづくりに関する市民意識調査（R6）

活性化に対するニーズ減少

平成20年度に実施した調査と比較して、まちなかの活性化について重要と回答した割合は減少しています。

まちなか活性化の認識



出典：まちづくりに関する市民意識調査（R6）、
中心市街地活性化に関する意向調査（H20）
※令和6年は平成20年調査の「まちなか在住者」、
「まちなか以外の在住者」の回答比率と同率に補正

① データで見る現状と課題（4/4）

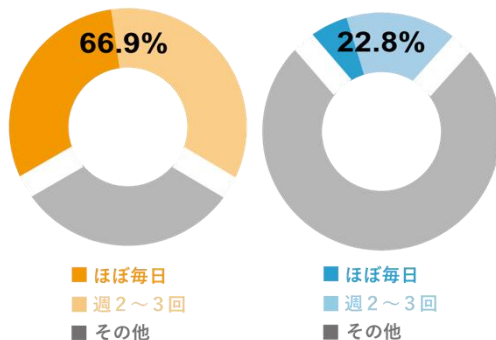
まちなかを頻繁に利用する層はまちなか在住者ですが、まちなか在住者も「余暇等を過ごす場所」としてイメージする人は半数以下となっています。また東京圏からの来訪者のまちなかへの立ち寄り、今後の伸びしろがあります。

まちなか利用者は まちなか在住者

週2～3回程度以上まちなかを利用する人は、まちなか在住者が66.9%、まちなか外在住者22.8%となっています。

まちなかの利用頻度

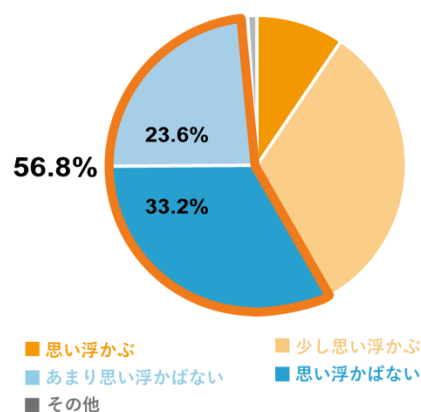
まちなか在住者 まちなか外在住者



余暇等を過ごす場所として のイメージは低い

まちなか在住者の半数以上が、まちなかを余暇や友達と過ごす場所として（あまり）思い浮かばないと回答しています。

余暇や友達と過ごす場所としての
まちなか（まちなか在住者限定）



来訪者のまちなかへの 立ち寄りは伸びしろあり

東京圏からの来訪者で、まちなかへの立ち寄り、鉄道（JR）利用者が約45%、鉄道利用者以外は10%台となっています。

東京圏在住来訪者の移動手段と
まちなかへの立ち寄りの相関

移動手段	立ち寄り	
	あり	なし
鉄道（JR）	44.5%	55.5%
自動車（高速道路）	15.4%	84.6%
自動車（一般道）	17.2%	82.8%
バス （バスツアーを含む）	17.4%	82.6%

② ヒアリング等から聞こえた代表的な意見（1/2）

ヒアリングやワークショップ、アンケートの自由記載等から、まちなかでつどうためのベンチの設置といった環境整備や、事業を継続していくためのビジネスモデル転換の必要性、居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちなかを希望する声があります。

座る場所などのニーズあり

勝田駅前でのベンチや休憩スペースに加え、飲食・本屋の立地といった若者も含めて滞留できる環境の充実について意見があります。

ヒアリング等で聞こえてきた声(主なもの)

- 勝田駅前の環境整備（ベンチ・休憩スペースの設置、飲食・土産店誘致）
- 公園や新中央図書館、コミュニティスペースなどの施設が充実してほしい。

●代表意見

- ・勝田駅前に座って待てる場所がなく不便。駅利用者の利便性を考えた環境整備をしてほしい。
- ・ファーストフード店や本屋を。駅ビルがないため若者が集まらない。

社会の変化に対応した事業展開

民間事業者からは、後継者の不在や建物の老朽化、デジタル化など社会の変化に対応した事業展開を検討する必要があるといった意見があります。

ヒアリング等で聞こえてきた声(主なもの)

- 資金、施設、空間、スキルなどの資源が不足している。
- 時代に応じたビジネスモデルへの転換方法がわからない、きっかけがない。

●代表意見

- ・後継者がいないことから、新しい投資や改築することが難しい。
- ・デジタル化する社会に、なかなか追いつけない。

居心地が良く歩きたくなるまちなか

歩道の老朽化等への対策や、夜間の照明の充実など、居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちなかに向けた意見があります。

ヒアリング等で聞こえてきた声(主なもの)

- 居心地がよく歩きやすくするために老朽化したものを更新してほしい。
- 夜間の歩く場所を明るくしたり、植栽を充実して歩きたくなるといい。

●代表意見

- ・歩道のラバーチップ舗装の劣化が進んでいる場所がある。
- ・夜間の照明が暗い。
- ・歩道のバリアフリー化や災害時の緊急輸送道路の対策を検討する必要がある。緑や花の植栽などの充実。

② ヒアリング等から聞こえた代表的な意見（2/2）

子どもや自分自身の将来を見通すことが難しく、将来に対する不安を感じるといった意見や、まちなかに関わり、使っていくためのノウハウやルールが変わっていくことを望む声がありました。

将来や社会に対する不安

子どもや自分の将来を案じる人が多く、ロールモデル※となる人との出会いが少ないことから、内向きな思考になっていくことを懸念する意見があります。

ヒアリング等で聞こえてきた声(主なもの)

- 子どもが一人で行動することや、将来をどう決めるか分からず不安に思う大人が多い。
- ロールモデルがないことから、この先、どうなるかわからず行動しづらい。

●代表意見

- ・子どもが一人で出かけるのが危険だと感じ、近所の習い事に通うのも親が送迎する。
- ・自分の将来が見通せず、生き方、働き方に不安を感じる。

まちなかを楽しむ ノウハウ不足

まちなかに対して関わる・使うことに対するノウハウが不足しているといった意見があります。

ヒアリング等で聞こえてきた声(主なもの)

- もっと自分たちもまちなかで楽しいことができるようにしてほしい。
- イベント以外でもまちなかに集うようになったらもっと魅力的になる。

●代表意見

- ・まちなかが「何かやっていい」場所とは思わない。知らない人が行きかうただある場所。
- ・まちなかでは多くのイベントがあるが、それは客として参加して楽しむもの。

ルール・規制が合わない

この場所でこういうことがしたいと思う今の人の考え方に、既存のルールや規制が合わず、やりたいことを断念するという意見があります。

ヒアリング等で聞こえてきた声(主なもの)

- 既存のルールや規制が変えられるのか検討が必要。
- 「なにかやりたい」という市民の主体性を発揮できる機会と捉え、まちなかを使いこなす人を増やすルールが望ましい。

●代表意見

- ・キッチンカーを出したいと思っても、おきたいと思う場所は前例がないから出せないと言われた。
- ・公園でデイキャンプしたいという声はあるものの騒音を気にして断られた。

2 | エリアの将来像決定までの取組

(3) まちなかのポテンシャル (1/2)

まちなかの特性や魅力を再確認し、エリアの将来像の実現に向けた可能性を明らかにするため、職員プロジェクトチームを中心にポテンシャルを整理しました。

まちなかには、新しく訪れる人を迎え入れる風土や新しい挑戦を受け止める懐の深さがあります。また、まちなかで活動する人が新たな価値やつながりを生み出すだけでなく、仲間として支え合う関係性も、まちなかならではの魅力です。シビックプライド（まちへの誇りや愛着）の高いまちなかは絶えず進化し続けるポテンシャルを秘めています。

新しく訪れる人を 迎え入れる風土

大きな企業が立地するひたちなか市には、これまでも国内外から多くの人に移り住んできました。その背景が、新しく引っ越してくる人を自然に受け入れる、やさしいまちの風土につながっています。

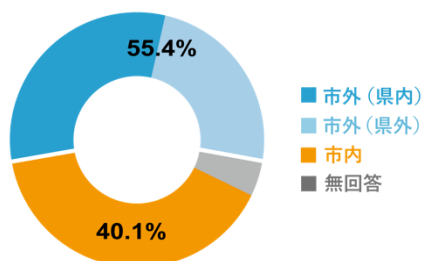
ライバルではなく仲間

行きたいお店が満席だったとき、店主が別のお店に連絡して予約をしてくれたり、「あそこもおいしいよ」とその場で紹介してくれたりといった声が聞かれました。お店同士の信頼関係は、訪れる人にとってもまた来たい理由になっています。

活動する人、 これから始める人

まちなかで活動している人や、これから何かを始めようとする人の存在は、新しい価値やつながりを生み出します。その積み重ねが、まちなかの魅力や機能を高める原動力になっています。

およそ55%は市外・県外出身者



出典：まちづくりに関する市民意識調査（R6）

新しい挑戦を後押しする 寛容なまちなかの雰囲気

出店やイベントなどに挑戦するとき、周囲の人が温かく見守ってくれたり、サポートしてくれた、という声が多く聞かれました。まちなかには、団体だけでなく個人の活動も受け止める懐の深さがあり、新たな挑戦を後押しする土壌が育っています。

シビックプライド茨城県内第1位

出典：シビックプライドランキング調査2024（読売広告社）

高いシビックプライド

まちなかに愛着を持って考え、行動する人が増えるよう、みんなのためになることがしたいという声が多く聞かれました。ひたちなか市に根付くシビックプライドは、まちなかを動かす大きな力となります。

2 | エリアの将来像決定までの取組

(3) まちなかのポテンシャル (2/2)

整備された公共空間や多様な公共施設、本市の玄関口の勝田駅、魅力的な個人商店・ナイトタイムエコノミー、イベントによる集客力もまちなかの強みです。空き家・空き店舗といった遊休不動産の活用や郊外に訪れる観光客等のまちなかへの回遊も含め、さまざまな資源が重なり合う、多様な可能性を秘めたエリアです。

整備された 活用できる公共空間

これまでの整備により勝田駅前には「いこいの広場」などの良質な歩行空間が広がります。また、昭和通りや健康いきいきロードといった道路や、親水性中央公園・石川運動ひろばなどの公園、市営駐車場などが多数あります。

魅力的な個人商店と 人気のナイトタイムエコノミー

まちなかには魅力的な個人商店が立地しています。またお酒を提供する夜経営の飲食店の割合が高く、魅力的な個人商店を求める市外からの来客も多くなっています。

充実した イベントと集客力

まちなかでは年間を通じて市をはじめ各種団体による大規模・中規模のさまざまなイベントが開催されます。また、イベント時は非常ににぎわい、まちなかは集客力があるエリアでもあります。

令和5.6年 観光入込客数 茨城県内第1位

出典：茨城県観光動態調査

多数の公共施設

令和10年度にオープン予定の新中央図書館やふぁみりこらぼ、文化会館、ワークプラザなど多くの公共施設があります。

遊休不動産 (空き家・空き店舗)

空き家や空き店舗は、リノベーションや用途転換により新たな価値を生み出すポテンシャルを秘めています。

郊外大型店舗の立地や 観光客の増加

郊外には集客力がある商業施設が立地するほか、国営ひたち海浜公園をはじめとして県内トップクラスの観光入込客数を誇ります。まちなかの差別化や魅力向上により多くの方がまちなかへ訪れる可能性があります。

交通結節点・ 玄関口「勝田駅」

勝田駅は市外来訪者を迎える玄関口として、まちなかとの交流を生む重要な拠点です。駅前空間と商店街・公共施設をつなげることで、訪れる人が自然にまちなかを歩き、まちなかと触れ合う流れを生み出すポテンシャルを持っています。

▶ まちなかポテンシャルマップ



2 | エリアの将来像決定までの取組

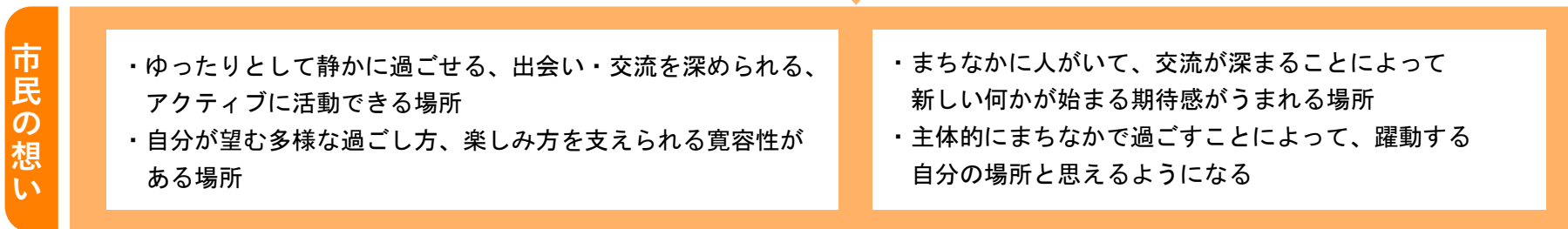
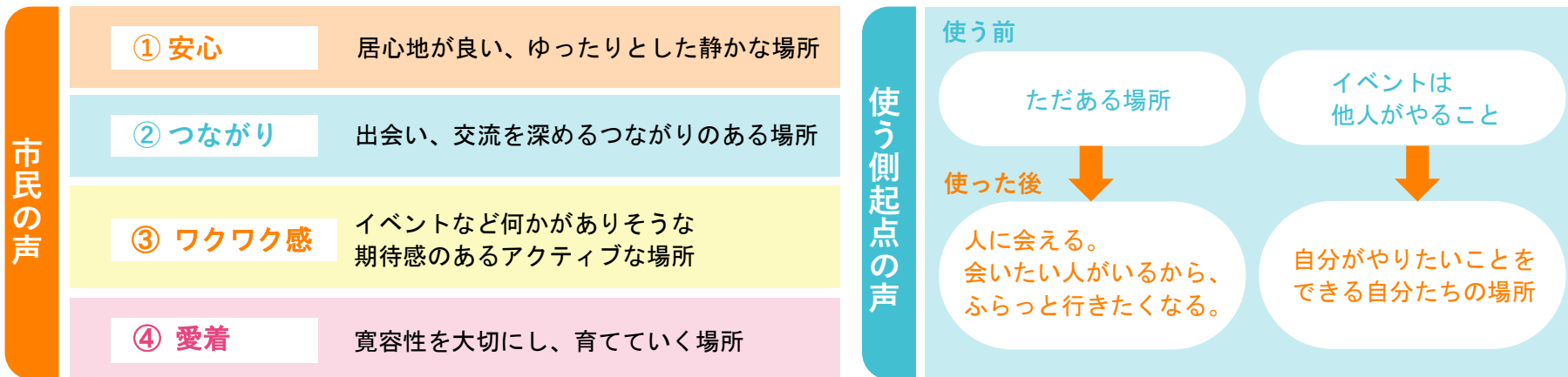
(4) エリアの将来像等の方向性

ヒアリングや小さくお試し参加者の声、職員プロジェクトチームにおける現状・課題・ポテンシャル等の整理、シンポジウムなどでの情報共有を踏まえて「市民が理想とするまちなか」と「行政として目指すまちなか」を以下のとおり整理しました。また、そこから「エリアの将来像」等の方向性を導き出しました。

市民が理想とするまちなか

ヒアリングより

小さくお試し参加者より



多様な過ごし方ができ、自分の色がだせる場所として感じられるまちなか

2 | エリアの将来像決定までの取組

(4) エリアの将来像等の方向性

行政として目指すまちなか

市民が理想とするまちなかを実現する考え方

▶ コンセプトの方向性

①居心地が良く、「安心」して「つどう」ことができるまちなかにする

現状・課題

- ・ 休日の人流減少
- ・ まちなかの魅力や存在感の低下
- ・ 駐車場の増加
- ・ 社会の変化に対応した事業展開

ポテンシャル

- ・ 魅力的な個人商店等の立地
- ・ 遊休資産活用の可能性
- ・ 交通結節点・玄関口「勝田駅」
- ・ 郊外大型店舗の立地・観光客の増加

②歩きやすく、誰もが過ごしやすい「つながり」のあるまちなかにする

現状・課題

- ・ 座る場所が少ない
- ・ ウォーカブルへの対応
- ・ 漠然とした将来への不安

ポテンシャル

- ・ ライバルではなく仲間という感覚
- ・ 整備された公共空間・公共施設

③「ワクワク」を感じる新たな活動が「はじまる」まちなかにする

現状・課題

- ・ まちなかを使うノウハウ、ルール不足（まちなかを使うサポート不足）

ポテンシャル

- ・ 挑戦を応援する雰囲気
- ・ 活動する人、これから活動を始め人
- ・ 充実したイベントと集客力

④①～③を結び付け、誇りや「愛着」を感じ、「自分事化」するまちなかにしていく

現状・課題

- ・ オススメしたいまちなかではない
- ・ まちなかは他人事

ポテンシャル

- ・ 寛容性があり、新しいものを迎え入れる風土
- ・ 高いシビックプライド

これまで（これから）の取組

▶ 基本方針の方向性

これまでの都市整備を活かした都市機能の向上

- ・ これまで整備を進めてきた勝田駅東口や病院周辺などの都市機能を活かすとともに、現中央図書館をはじめとしたポテンシャルの活用・公民連携など、多角的な視点から今後のまちなかを検討していく。

コンパクト・プラス・ネットワークの推進

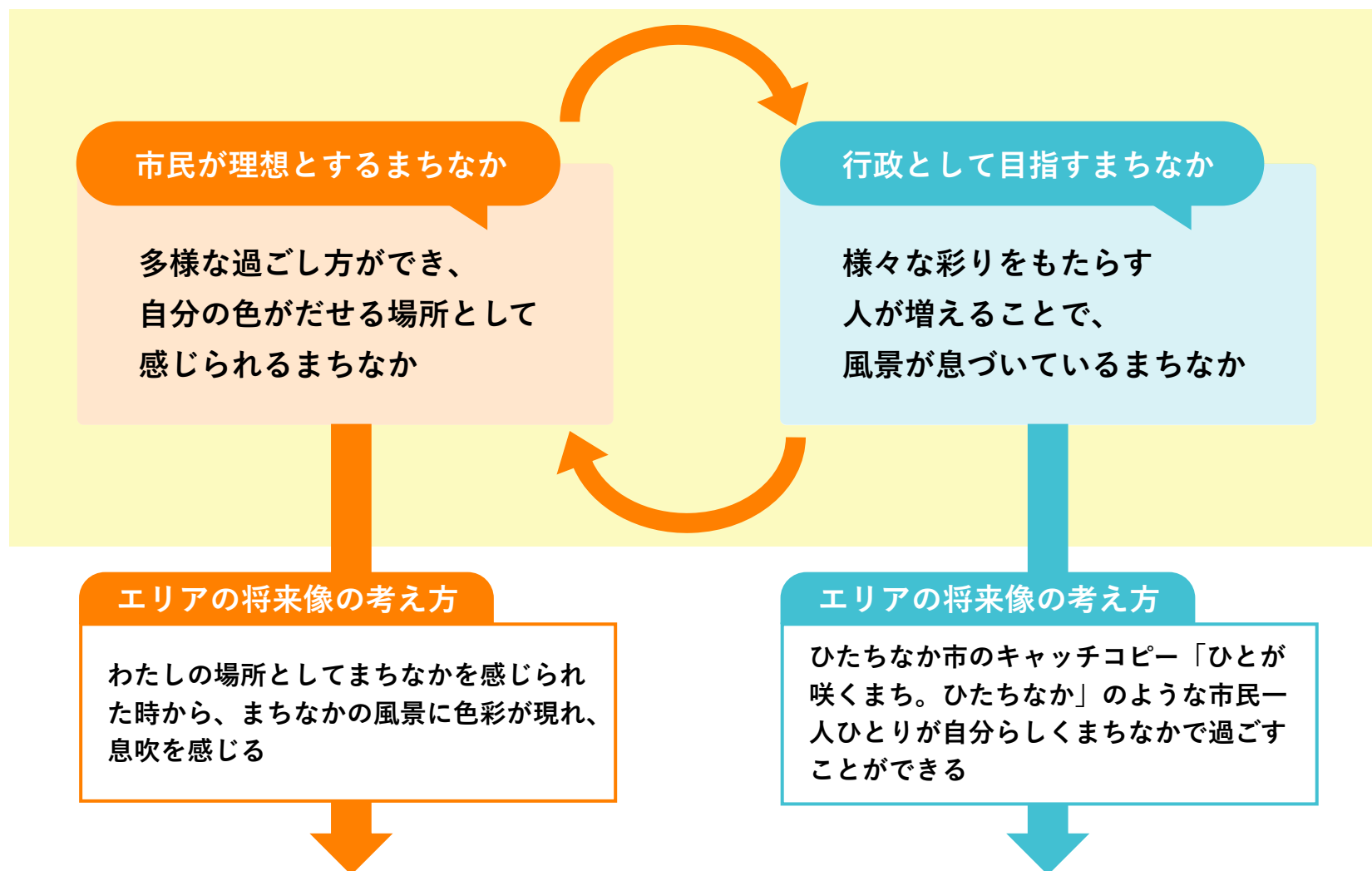
- ・ コンパクトで機能的なまちを目指し、多角的な視点から今後のまちなかを検討していく。

市民協働や公民連携による共創の推進

- ・ 市民や団体の「やってみたい」気持ちを後押しし、小さく実験的にまちなかを使っていく。
- ・ その実験や実践の結果だけでなく、プロセスを経験することで得る知見の蓄積も重視する。
- ・ そうした様々な検討の中で、規制の緩和や整備などの検討を行う。

様々な彩りをもたらす人が増えることで、風景が息づいているまちなか

2 | エリアの将来像決定までの取組



●エリアの将来像の方向性

まちなかの風景が「いきている」ようになること

03 エリアの将来像と戦略

エリアの将来像を明確化し、それを実現する戦略を整理しました。

3 | エリアの将来像と戦略

(1) エリアの将来像

いきているまちなかの風景をつくる

居心地が良くゆったりとした「**静かな過ごし方**」ができたり、歩いていたらばったり知り合いに会って談笑するような「**交流**」がうまれたり、まちなかを「**アクティブ**」に多様に使う人がいたりすることで、目的がなくてもまちなかに行くだけで楽しい気持ちになる。まちなかの「**寛容性**」によって幅の広い過ごし方・楽しみ方ができ、様々な彩りをもたらす人が増えることで、まちなかが息づくような『**いきているまちなかの風景をつくる**』ことをエリアの将来像とします。そして、ひたちなか市に関わる人がまちなかへの誇りや愛着を深め、まちなかで過ごす時間が増えることを目指します。

(2) エリアの将来像達成に向けたコンセプト

「つどう、つながる、はじまる。わたしのまちなか」

まちなかを、**足が向かい（つどい）**、**歩きやすく過ごしやすい（つながる）**、**自分のやってみたいができる（はじまる）**場所にすることを戦略として位置づけるとともに、これらによって**まちなかとの接点を増やすことで誇りや愛着を感じる（わたしの）**エリアにしていくことを目指し、『**つどう、つながる、はじまる。わたしのまちなか**』をエリアの将来像達成に向けたコンセプトとします。

03 エリアの将来像と戦略

エリアの将来像

イメージ図作成中

(3) エリアの将来像達成に向けた基本方針

① スモールスタートで始める

事業をスモールスタートで実施することで、リスクを抑えながら柔軟に改善を重ねることができ、失敗しても軌道修正がしやすくなります。参加者や地域の反応を見ながら進めることで、実情に合った取組が可能となり、継続的な成長や共感の醸成にもつながります。



イラスト検討

② 公民連携で進める

行政だけでは捉えきれない地域のニーズや個人の想いに対し、市民や民間事業者の柔軟な発想・行動力を組み合わせる「公民連携」によって取り組むことで、多様で持続可能なまちづくりが実現します。公共と民間の互いの強みを活かし合うことで、公共空間や地域資源の価値を最大限に引き出し、エリア全体の魅力と活力を高めます。

③ プロセスを重視する

事業の実施のみを目指すのではなく、関わる人々とのプロセスにも意味を見出します。たとえ結果が期待通りでなくても、関わった経験や学びが地域にとって価値のあるものとなります。このアプローチは、地域住民や関係者が主体的に関与し、共に成長していくことを重視しています。

(3) エリアの将来像達成に向けた基本方針

④ 使う側起点でポテンシャル（既存ストック）を考える

人口減少社会の到来を踏まえ、コンパクトで機能的なまちを目指し、ソフト事業を中心に据えながら、まちなかに数多くあるポテンシャル（23ページ参照）を「使っていく」という視点を持って最大限活用し、今後のあり方を検討します。また、ハード面の事業実施にあたってはソフト事業との連動を考慮しつつ、必要性を検討して事業に位置づけます。

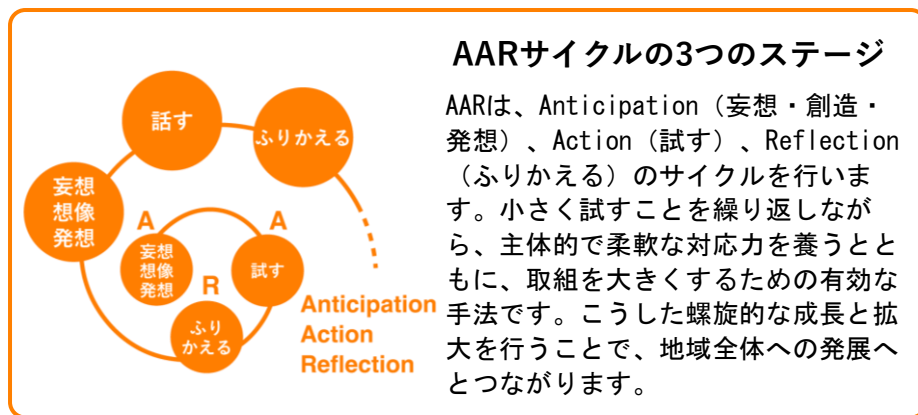
令和10年度完成予定の新中央図書館はまちなかの大きなリノベーションです。この契機を最大限に活かし、公民連携による小さなリノベーションや日常的なプログラムの充実を積み重ねることで、人が関わり続けたい魅力や多様な居場所を生み、まちなか全体の価値と活力を高めます。

⑤ 螺旋的な成長と拡大を目指す

まちなかでの取組を直線的な道筋ではなく、螺旋的なイメージで捉えます。活動が積み重なることで、地域の魅力や活力が拡大していきます。この螺旋的な成長は、試行錯誤を繰り返しながら、地域全体の発展へとつながります。

⑥ 戦略的な実施と柔軟な対応で進める

実現に向けた取組の実施、継続、中止などの判断は、これらの基本方針を踏まえ、毎年度総合的に行います。社会情勢や地域の状況に応じて柔軟に対応し、最適な方向性を模索します。また、実施、継続、中止に関わらず、結果や過程は検証し、次のステップへの学びとします。



(4) 期間

令和8年度～令和11年度

短期でまちなかを変化させていくことを目標とするとともに、令和10年度に新中央図書館の供用が開始される予定であることなどを踏まえ、ビジョンの期間を令和8年度から令和11年度までの4年間とします。取組の状況に応じて期間を延長することがあります。

(5) KGI

相談件数、まちなかでの活動数、オススメ度（NPS）

KGI（Key Goal Indicator／重要業績評価指標）は市民が「まちなかを使うことに関する相談件数」、「まちなかでの活動数※」、市民の「まちなかで過ごすことに対するオススメ度（NPS）」（19ページ参照）とします。

KGI		現状値（令和6年度）	目標値（令和11年度）
「まちなかを使うこと」に関する相談件数		40	80
まちなかでの活動数	イベント・プログラム数	358	430
	施設利用件数	12,054	12,730
「まちなかで過ごすこと」に対するオススメ度（NPS）		▲76.7	現状値以上

※ まちなかでの活動数 イベント・プログラム数▶道路、公園、市営駐車場、ふぁみりこらぼ、中央図書館等でのイベント等開催数
施設利用件数 ▶文化会館、ふぁみりこらぼ、中央図書館、ひたちなか・ま等の利用件数

(6) 戦略とまちなかプロジェクトの方向性

エリアの将来像を実現するため、3つの戦略とまちなかプロジェクトの方向性を下図のとおり整理しました。まずは「行ってみよう、過ごしてみよう」と思えるきっかけを増やし、まちなかをつどう場所にします。さらに、歩きやすく過ごしやすい場所にするすることで、人と人、人とまちなかのつながりを生み出します。そして、「やりたい、やってみたい」という気持ちを後押しすることで、活動を始められるエリアへと育てます。こうした動きを有機的に結び付け、相乗効果を生み出しながら、誇りや愛着を感じるエリアにしていくとともに、ステークホルダーとの連携を深め、良質な民間投資を促し、エリア全体の価値向上とにぎわいの創出を目指します。

戦略①

まちなかへ足が向かい、望んだ過ごし方や多様な関わり方ができる
(つどう/場)

考え方

公共施設や個人商店が多く立地している強みや、整備を進めている新中央図書館を活かし、まちなかを「つどう」ことができる場所にする

プロジェクトの方向性

- ① 行きたくなる場所をつくる
- ② 顔が見える商業を活かす
- ③ 新中央図書館整備を活かす

戦略②

歩きやすく、誰もが過ごしやすいまちなかにする
(つながる/つながり・回遊)

考え方

新たな取組を受け入れる寛容性や、これまで進めてきた病院周辺の整備を活かしながら、人と人、人とまちなかが「つながる」ことができる場所にする

プロジェクトの方向性

- ① 誰もが過ごしやすい場所にする
- ② これまで進めてきた病院周辺整備を活かす

戦略③

やりたいと思えることが実現できるまちなかをつくる
(はじまる/ヒト・コト)

考え方

まちなかで活動する人が増えることでまちなかが身近になる。今までは余白だった公共空間などを使って「やりたい」気持ちを実現できる場所にする

プロジェクトの方向性

- ① まちなかで活動する人を増やす
- ② にぎわいを日常に広げていく

(7) 中心市街地ビジョン全体骨格

エリアの
将来像

いきているまちなかの風景をつくる
～つどう、つながる、はじまる。わたしのまちなか～

KGI

- ① 「まちなかを使うこと」に関する相談件数
- ② まちなかでの活動数
- ③ 「まちなかで過ごすこと」に対するオススメ度（NPS）

戦略①

まちなかへ足が向かい、望んだ過ごし方や多様な関わり方ができる
(つどう/場)

戦略②

歩きやすく、誰もが過ごしやすい
まちなかにする
(つながる/つながり・回遊)

戦略③

やりたいと思えることが実現できる
まちなかをつくる
(はじまる/ヒト・コト)

まちなかプロジェクト

01

行きたい
まちなか

02

顔が見える
商業化

03

新中央図書館
整備

04

誰もが
過ごしやすい

05

健康
まちなか

06

まちなか
活動創出

07

にぎわいを
日常に

エリアの将来像「いきているまちなかの風景をつくる」を踏まえ、市民や民間事業者、活動団体からのヒアリング、職員プロジェクトチームでの検討等から、まちなかの4エリアについて、以下の「あったらいいイメージ」などが確認できました。これらの声を踏まえて、まちなかのポテンシャルや公民連携など、多角的な視点から今後の活用等を検討します。

元町・共栄町周辺エリア

●あったらいいイメージ

- ・人と出会い、コミュニケーションが生まれ、毎日でも行きたくなる場所がある。
- ・現中央図書館の使用後（令和11年度以降の予定）も高校生や若い人が集まるエリアであってほしい。
- ・地元のプロチーム（バスケットやバレーなど）の試合を応援した帰りに、親子がユニフォームを着たままだち寄りしている。
- ・学生や高齢者が毎日でも行けるリーズナブルな飲食店がある。

●使用ポテンシャルや公民連携の視点

- ・現在の中央図書館を今後活用する市民や民間事業者はいませんか？
- ・おしゃれなカフェ等を民間事業者と一緒にPRできませんか？
- ・ROCKオブジェ前などの広い公共空間を使いたい人はいませんか？

表町商店街周辺エリア

●あったらいいイメージ

- ・夜の時間が楽しいので、今よりもっと市外・県外の人を訪れるようになる。
- ・一方で、一人でも、大勢でも読書ができるような落ち着いたカフェのようなスペースもある。
- ・個性的なお店が並ぶ通りを、若い人も何かを買わなくてもぶらぶらして何時間でも過ごしている。
- ・行きつけや顔なじみの店がある。

●使用ポテンシャルや公民連携の視点

- ・充実したナイトタイムエコノミーを活かして、強みである観光資源と結び付けてさらに盛り上げられませんか？
- ・空き家や空き店舗について、みんなでどうしていくか考えませんか？

親水性中央公園周辺エリア

●あったらいいイメージ

- ・コーヒーを飲みながら過ごせたり、いつも小さくお試しする人がいたり、ドッグランで犬が走っていたりと、誰もが気持ち良く使える雰囲気がある。
- ・コーヒーフェスや気球イベントのような民間事業者等が主体的に行う大きなイベントが継続的に開催される。また、新たなイベントが始まる。

●使用ポテンシャルや公民連携の視点

- ・新しい挑戦を繰り返せる場所でやってみたいことを試しませんか？
- ・四季を感じられる場所で季節を楽しむ行事を企画する人はいませんか？
- ・開放感がありリラックスもできる、あなたならどう過ごしますか？

新中央図書館周辺エリア

●あったらいいイメージ

- ・図書館周辺の公園の木陰で涼しく過ごしていたり、学生や高齢者がイスに座っておしゃべりを楽しんでいる。
- ・新中央図書館に本好きが集まり学びや出会いから好奇心をくすぐられる。
- ・石川運動ひろばに犬好きが集まっていたり、子どもたちが思い思いに遊んでいる。
- ・健康いきいきロードを歩いたり、ストレッチをしたりする人がいる。ふあみりこらぼや新中央図書館をシームレスに使いこなしている。

●使用ポテンシャルや公民連携の視点

- ・本だけからでなく知識や発見を得られる場所で互いに学べる機会を考えてみませんか？
- ・健康を意識できる場所をもっと活用する方法を企画する人はいませんか？

04 まちなかプロジェクト

戦略に基づく「7のまちなかプロジェクト」を整理しました。

(1) 行きたくなるまちなかプロジェクト

目的があってもなくても、まちなかに足が向かうようなしつらえをみんなで考える

目指したい姿とまちなかの人の気持ち

● 目指したい姿

- ・ 人が集まり、歩く人が休憩する風景が広がる
- ・ 目的がなくても立ち寄れる、自由に開かれた場所

気持ち ワクワク・楽しい・開放感・居心地が良い

実現に向けて取り組んでいくこと

- ・ まちなかの施設（ふぁみりこらぼや市民交流センター等）と連携し、市民が気軽に集まり、活動できるようにする
- ・ おしゃれなベンチを設置するなど訪れたい気持ちをも高める
- ・ 公園や施設の整備などではワークショップや話し合いを通じて、魅力づくりや居心地の良さを検討する

公民連携の視点

- ・ 地域施設や公共空間を活用する
- ・ イベントや催しを企画・実施する
- ・ 民間の技術やノウハウを提供する

使用ポテンシャル

- ・ 公共空間・公共施設
- ・ 高い集客力
- ・ 活動する人、したい人

▲ 公共空間を活用したベンチやテーブル、キッチンカーの設置

▲ ふぁみりこらぼ等での活動

▲ Park-PFI※導入の検討

(2) 顔が見える商業化プロジェクト

個人商店はまちなかの大切なコミュニティ
人の顔が見える商業によるにぎわいの創出方法を考える

目指したい姿とまちなかの人の気持ち

● 目指したい姿

- ・ 新しいことを始められる商業エリア
- ・ 個人商店の魅力が広がり、通いたくなる

気持ち やりがい・ワクワク・嬉しさ・仲間意識

実現に向けて取り組んでいくこと

- ・ 関係者と連携し、まちなかの活用方法を検討する
- ・ 出店や創業を支援ながら開業のハードルを下げ、新たなにぎわいを生み出す
- ・ 店主が講師となる小規模な講座を開催し交流を深め、個人商店のファン化を促す
- ・ 観光地や郊外の大規模商業施設への来訪者が、まちなかにも訪れるよう促進する

公民連携の視点

- ・ 新しい事業に挑戦する
- ・ 地元商店での買い物を促す
- ・ 空き店舗や施設のリノベーション

使用ポテンシャル

- ・ 魅力ある個人商店
- ・ 活用できる空き物件
- ・ 寛容さ、仲間意識
- ・ ナイトタイムエコノミー

▲ 空き店舗等のリノベーション

▲ 商店街等でのファン化促進

▲ ナイトタイムエコノミー

(3) 新中央図書館周辺エリア整備プロジェクト

図書館で本を読む人、借りる人はもちろんのこと、
多くの人が充実した時間を過ごせる場所にしていくためのしつらえ、しくみを考える

目指したい姿とまちなかの人の気持ち

● 目指したい姿

- ・ 読書や交流を楽しめる癒しの空間
- ・ 緑豊かな公園とつながり、居心地良く過ごす

気持ち 居心地が良い・安心・好奇心・つながり・誇り

実現に向けて取り組んでいくこと

- ・ まちの魅力や情報に出会える新中央図書館と緑豊かな東石川第4公園等を一体的に整える
- ・ 新中央図書館を拠点とし、近隣の公園や公共空間、公共施設のほか、表町商店街や親水性中央公園などをつなげ、まちなかの回遊を促す
- ・ 目的がなくても新中央図書館周辺エリアで過ごしたくなるようしつらえやしくみを考える

公民連携の視点

- ・ 新中央図書館で過ごす
- ・ イベントや催しを企画・実施する
- ・ 公園や図書館で出店を検討する

使用ポテンシャル

- ・ 新中央図書館整備
- ・ 高い集客力
- ・ 公園や公共施設の近接

▲ 公共施設間での回遊促進

▲ 図書館デッキでの談笑

▲ まちの魅力や情報に出会える展示

(4) 誰もが過ごしやすいまちなかプロジェクト

子どもや高齢者、障害者、外国人も居心地が良く、
過ごしやすいまちなかのあり方を考える

目指したい姿とまちなかの人の気持ち

● 目指したい姿

- ・ 子どもや高齢者、障害者、外国人も安心できる
- ・ バリアフリー化等により、心地良く過ごせる場所

気持ち 安心・安全・つながり・共感・充実

実現に向けて取り組んでいくこと

- ・ 子育て世帯や新しい住民が出会い、交流できるまちなかづくりを進める
- ・ 高齢者や障害のある人も快適に回遊できるバリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮したまちなかをつくる
- ・ 多様な価値観が共存し、交流できるまちなかを目指す

公民連携の視点

- ・ SDGsを推進する
- ・ 地域イベントを支援・協賛する
- ・ 店舗や施設を多言語対応にする

使用ポテンシャル

- ・ 整備された公共空間
- ・ 寛容で開かれた雰囲気
- ・ 引っ越しや転勤で来る人

▲ふぁみりこでの子育て世代交流

▲多文化共生の推進

▲ウォーカブルなまちなか

(5) 健康まちなかプロジェクト

これまで進めてきた病院周辺の整備を活かし、
多くの人々が外に出て体を動かすしくみを考える

目指したい姿とまちなかの人の気持ち

● 目指したい姿

- ・ 公園や健康いきいきロードを活かし、体を動かしている
- ・ 病院と一体で地域の健康を支えるエリア

気持ち 健康への前向き意識・安心・つながり・充実

実現に向けて取り組んでいくこと

- ・ 病院、公園、健康いきいきロードなどのつながりを活かし、安心して健康づくりができる環境を整える
- ・ 日常の中でスポーツ活動を楽しみ、健康の向上を促す
- ・ 安全な歩行に支障がある歩行空間について改善を図る

公民連携の視点

- ・ 健康教室や講座に参加する
- ・ ウォーキングや運動を広める
- ・ 健康イベントを実施する

使用ポテンシャル

- ・ 病院や健康いきいきロード
- ・ 整備された公園等

▲ 健康いきいきロードの活用

▲ 石川運動ひろばでスポーツ

▲ ひたちなか総合病院

(6) まちなか活動創出プロジェクト

まちなかを楽しく魅力的な場所にしていくため、
市民や団体の「やりたい」ことを実現できるしくみをみんなで考える

目指したい姿とまちなかの人の気持ち

● 目指したい姿

- ・ 市民や団体が公共の場を使って活動している
- ・ 市民と行政が協力し、まちなかを元気にしている

気持ち ワクワク・誇り・つながり・安心・期待・充実

実現に向けて取り組んでいくこと

- ・ 市民や活動団体が主体的に公共空間や施設を活用するしくみを整える
- ・ 市民・民間事業者・行政が連携し、まちなかの魅力を引き出す活動を展開する
- ・ まちなかでの活動を広めるプロモーションを行う

公民連携の視点

- ・ ワークショップなどに参加する
- ・ 新しいアイデアや技術を提供する
- ・ 活動を支援する、一緒に活動する

使用ポテンシャル

- ・ 活動する人・団体
- ・ 活用できる公共空間
- ・ 寛容で開かれた雰囲気

▲ 市民による小さくお試し活動の促進

▲ 活動を実現するワークショップ

▲ 活動を広めるハウツー本

(7) にぎわいを日常に広げるプロジェクト

イベントのにぎわいを日常に溶け込ませ、
まちなか全体をより身近で魅力的なエリアに育てるしくみを考える

目指したい姿とまちなかの人の気持ち

● 目指したい姿

- ・ まちなかに自然と人が歩き楽しんでいる
- ・ イベントのにぎわいが日常にも広がっている

気持ち ワクワク・活気・期待・充実・誇り・楽しい

実現に向けて取り組んでいくこと

- ・ 祭りやイベントを継続し、そののにぎわいがまちなかの日常へ広がる方法を検討する。
- ・ まちなかを歩き、滞在し、楽しむことを促す。
- ・ まちなかの魅力を広げるプロモーションを展開する。
- ・ まちなかの移動手段や回遊性を高めるしくみを検討する。

公民連携の視点

- ・ イベントを実施する
- ・ 公共空間や場を整備する
- ・ 民間の知見やアイデアを活用する

使用ポテンシャル

- ・ 高い集客力のイベント
- ・ コンパクトなエリア構造
- ・ 人とのつながり

▲ ひたちなか祭りなどでのにぎわい

▲ プロモーションの実施

▲ 公共交通等の移動手段

公民連携の事例

須賀川南部地区エリアプラットフォーム (福島県須賀川市)

須賀川南部地区エリアプラットフォームは、須賀川市中心市街地南部エリアの再生と持続的な発展を目指し、令和3年1月に設立された任意の協議体です。住民、商店主、地元企業、大学、行政など多種多様な主体が参画し、「地域が自ら考え、行動し、育てていくまちづくり」を実現することを目的としています。従来の行政主導型ではなく、地域自らが課題を共有し、将来像を描き、実践を通して課題解決を進める仕組みづくりを重視しています。



エリブラ全体会議の様子

設立後は、地域の現状と可能性を整理し、10年先を見据えた「須賀川南部地区未来ビジョンみちしるべ(2022-2031)」を策定しました。このビジョンにより、「つなぐ、つむぐ」を基本理念に、「人と社会」「人と場」「人と環境」の切り口から、持続可能なまちそだてを進めています。住民や事業者、専門家が分野別のワーキンググループで議論を重ね、実践的な取組を展開しています。主な取組として、地域のにぎわいづくりを担う「Rojima(ロジマ)」との連携、空き地・空き店舗を活かしたサードプレイスや交流スペースの創出、DXを活用したシビックプライド醸成と人財育成などが挙げられます。また、大学や企業と連携し、人流や消費動向などのビッグデータを分析して商業活動や回遊性の向上につなげるほか、全国のまちづくり団体との交流フォーラムを通じて知見共有やネットワークづくりも進めています。これらの活動により、地域内の連携と信頼関係が深まり、住民や事業者の主体的な行動が生まれました。公共空間や低未利用地の活用が進み、来訪者の増加や地域経済の活性化にもつながっており、須賀川南部地区エリアプラットフォームは、自立・自走型のまちづくりモデルとして、他地域からも注目されています。

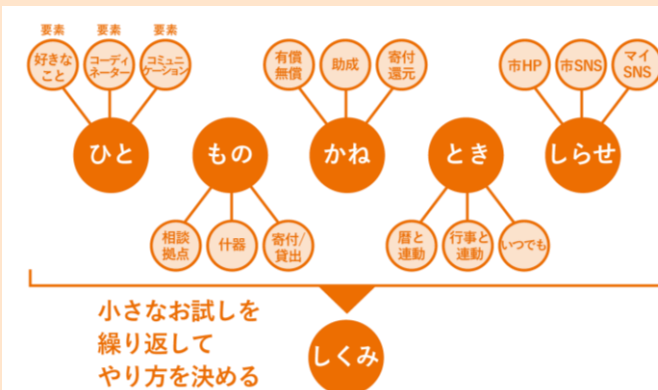
コラム

「プライベート」「コモン」「パブリック」

まちづくりは、個人の趣味や「やってみたい」という想いから始まります。最初は小さな活動（プライベート）であっても、実際に取り組むことで「集まれる場所があったほうがいい」「市のお土産にできるのでは」といった共通の関心や課題（コモン）が生まれます。さらに、それが発展していくと、より多くの市民にとって必要な事業や政策（パブリック）へと広がり、実態に即した自分たちのまちづくりにつながっていきます。

こうした活動の積み重ねは、参加した人ごとに経験やノウハウを生み出します。「この方法ならうまくいく」「この人に相談すると良い」といった知見や、時間・場所・人・資金・情報などの見えにくい資源が個人の中に蓄積されます。

それらをつなぎ合わせ、活動を始めたい人に届くことが重要です。このビジョンはその第一歩であり、市民や事業者のみなさんと試験的な取組を重ねながら、より良いしくみを形にしていきます。



▶ 目指す公民連携

公共（公）と民間（民）の連携では、それぞれが持つ強みを持ち寄り、公と民の効果的な連携を促進することが重要です。本ビジョンでは、その得意分野を以下のように整理しました。

▶ 民の得意分野

● 魅力的なコンテンツづくり

- ・「楽しい・面白い・カッコいい」をつくるのは公より得意

● 事業として運営していくこと

- ・利益を再投資し、事業として継続的に運営することができる

▶ 公の得意分野

● まちなかに多くの公共空間を持っている

- ・広場や道路等の公共空間を民間が使えるよう支援ができる
- ・場合によっては、それらの整備ができる

● 一時的な事業支援ができる

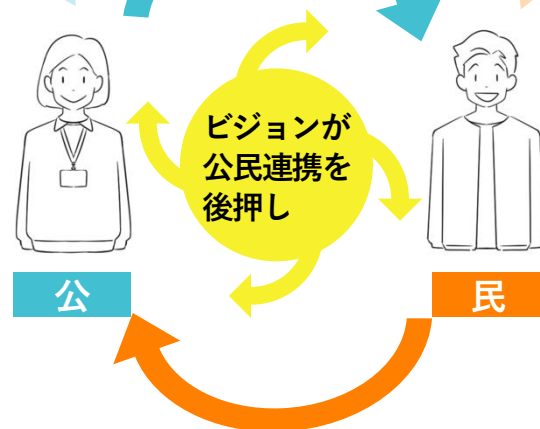
- ・公益性のある事業には、立ち上げ時の社会実験等をサポートすることができる

「いきているまちなかの風景」をつくっていくためには

- 民が事業主体となって運営するプロジェクトをつくる
- 公は民の活動や事業創出、運営化を支援し、併走していく

公ができる支援を提供していく。
公の中でも連携を進めていく。

民だからこそできるアクションで、
わくわくできるまちなか実現に向けて進む。



▶ 目指すプラットフォーム

まちなかプロジェクトの実践を通じて、公民連携のプラットフォームの機能を整理し、構築していくことを目指します。エリアの将来像の実現や実践に関心があるメンバーを中心に、さまざまなステークホルダーを巻き込みながらビジョンの推進を担っていきます。これらの主体が連携し、それぞれの得意分野を活かすことで、より効果的なまちなかづくりを目指します。

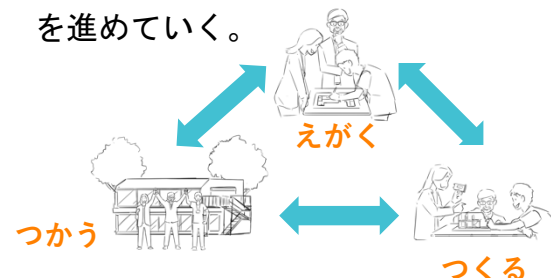
プラットフォームのイメージ



プラットフォームの機能

● 多様な主体の連携

多様な主体が連携して、まちなかの取組を進めていく。



● ビジョンの共有

課題やエリアの将来像、具体的な方策などについて、常に多様な関係者とイメージを共有しながら進める。



● 一体的で柔軟な運営

利用者の目線に立ち、一体的な管理・運営を行うことや、可変的・多目的な活用を行う。